

伊豆諸島海域におけるキハダ基礎的生態研究

【背景と目的】

かつて八丈島では、トビウオ流刺網、ムロアジ棒受網、カツオ曳縄、底魚一本釣りなど複数の魚種、漁業種類を組み合わせて操業を行ってきた。近年はキンメダイに漁獲が集中し、漁獲量の7割以上を占め、キンメダイに対する漁獲圧が高まっているものの、八丈島における曳縄漁に対する期待は、操業効率や収益性の観点から依然として高く、漁業者から、漁場環境などの情報提供依頼も多い。

八丈島における曳縄漁の主な対象魚種はカツオであったが、漁獲量の減少により出漁隻数も減少している。一方で、キハダの漁獲量、一日一隻当たり漁獲量（CPUE）は増加傾向となっており、漁業者のキハダに対する期待が高まっている。水揚げされたキハダは、学校給食に利用されるなど島内の需要も高まっている。

そこで本研究により、伊豆諸島海域で不明なキハダの生態解明をすすめ、漁場予測を含めた曳縄漁の操業支援につなげる。

【研究概要】

キハダの伊豆諸島海域における生態調査

（1）漁獲物の測定

- ①漁法別・漁場別・季節別 魚体組成の把握
- ②きはだ(ヌキ・本)の重量の把握
- ③季節別漁法別餌料調査
- ④生殖腺調査による成熟状況の把握

（2）移動生態調査

- ①小型魚標識放流調査
アーカイバルタグ等を用いた回遊経路
- ②生息水温、深度等の把握
- ③大型魚標識放流についての技術開発

（3）漁場海洋条件の把握

- ①CTD、ADCP等による海洋観測および試験操業による魚群情報の収集
- ②試験操業結果の漁業者への情報提供